

みんなとプーク

発行所 人形劇団プーク 編集兼発行人 長谷川正明
東京都渋谷区代々木2-1 TEL (377) 5128 (代)

2PP

1967-1969

日本で初めての人形劇場をつくる 第2次プーク建設3ヶ年計画決定!

来る一九六九年はわたしたち人形劇団プークの劇団創立(一九二九年)からちょうど四〇周年にあたります。わたしたちはこれを記念して、今日までプークを進めてきた仕事をさらに新しく発展させるために、都心新宿に人形劇の専門劇場を建設することにいたしました。このことはわたしたちにとって長い間の願いでした。わたしたち三十年の歩みは、けつしてはなほなほいものではありませんが、プークは常に日本の人形劇をよりよく発展させる、日本中の子供たちと大人のたの現代人形劇を創りだすために努力してきました。けれど世界に誇れる民族の豊かな人形劇の歴史を支え、今日から明日への人形劇を創造していく仕事は容易なことではありませぬ。

そのことは今日わが国にた一つの人形劇場さえないことに、最もよく現われていると思えます。世界各国の人形劇が行なわれている国々チエコスロヴァキア、ソウイェト、ポーランドなど東欧諸国、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、オーストリア等西歐各国、アラブ連合、中国等々それぞれに人形劇場を持っている。日本にそれが無いのはまことに残念です。舞台芸術を創りだしていく仕事は、小山内薫、土方与志郎先生によって建てられた築地小劇場の歴史が何よりもよくそれを教えてくれます。プークがこのたび建てる人形劇場は、これまでから今日まで、川尻さん一家が困難な時代を乗り越えて、プークを育ててこられた努力はなみだていではなかつたろう。

この壮筆に心からの声援をおくりたい。現代の人形劇界で最も長い歴史をもち、しかも伝統の継承発展という点にも深い関心と努力を傾けているプークは、この意義ある事業をなすに最もふさわしいことはあきらかにた。プークの手にて作られるもの、折つてやまぬ。

第二回全国人形劇人会議が東京で全国より数百名の人形劇の仲間が集って盛大に開かれまし。このときわたしたちが今の度の計画を決めたことは、また意味あることと思えます。この劇場は日本の人形劇運動にたづさわっている全国の多くの人形劇の仲間たちに広く利用してもらえ人形劇の家になるでしょう。わたしたちは、戦後劇団再建にあたって、第一次・プーク建設計画により、現在地に劇団の建物をつくりました。このたびの第二次・プーク建設3ヶ年計画は、本年より劇団創立四十周年にあたる一九六九年十二月までの三年間での事業をなす考へております。わたしたちはこの事業がどんなに困難なものであるかをよく

知っております。けれどそれは人形劇を愛し、プークを支持してくださるみなさんの力と、わたしたちプークの力を合せるなら、それは必ずできるものだと、このことをさらに強く確信いたします。この劇場はまた劇団創立者川尻東次をはじめ、永い苦しみをかけてその歴史を築いた多くの誇るべき先輩と協力者たちの記念碑でもあるのです。このたび幸にもわが国の演劇界の権威者であり、プークのよき理解者である河竹繁俊先生が、わたしたちの計画の顧問となつてくださいます。わたしたちは河竹先生をわたしたちの事業の歴史的社会的保証人として、人形劇団プークの劇団員一人一人は、すべての力を出して、心ずこの計画をなしてあげて、心ずこの計画の前にお約束することともに、われわれのこの計画に対し、皆様の暖かい御理解と御力添えを心からお願ひ申し上げる次第です。人形劇を愛しプークを支持し下さる皆さんへ、昼はともが、夜はおとなが、いつでも人形劇を、見られるために、



人形劇場建設の企てをよるいふ

川尻さんを代表とする人形劇団プークが劇団創立四十周年の記念事業として、現代人形劇のための専門劇場を建設されるそう。じつによろこばいことである。思えば昭和四年十二月川尻東次さんを中心に、第一回公演を催されてから今日まで、川尻さん一家が困難な時代を乗り越えて、プークを育ててこられた努力はなみだていではなかつたろう。私ほそれをするうと見てき

東京の国立劇場小劇場と文楽を保存するにはいい劇場がある。しかし、現代および将来の人形劇のための専門劇場はなかつた。日本がつかつていまの文楽を生んだことを思うと、今日の創造の場にないのは残念だし、おかしなご。それがいよいよ、この道はずに生きてきた人形劇団プークの手にて作られるもの、折つてやまぬ。

この壮筆に心からの声援をおくりたい。現代の人形劇界で最も長い歴史をもち、しかも伝統の継承発展という点にも深い関心と努力を傾けているプークは、この意義ある事業をなすに最もふさわしいことはあきらかにた。プークの手にて作られるもの、折つてやまぬ。

第二回全国人形劇人会議が東京で全国より数百名の人形劇の仲間が集って盛大に開かれまし。このときわたしたちが今の度の計画を決めたことは、また意味あることと思えます。この劇場は日本の人形劇運動にたづさわっている全国の多くの人形劇の仲間たちに広く利用してもらえ人形劇の家になるでしょう。わたしたちは、戦後劇団再建にあたって、第一次・プーク建設計画により、現在地に劇団の建物をつくりました。このたびの第二次・プーク建設3ヶ年計画は、本年より劇団創立四十周年にあたる一九六九年十二月までの三年間での事業をなす考へております。わたしたちはこの事業がどんなに困難なものであるかをよく

知っております。けれどそれは人形劇を愛し、プークを支持してくださるみなさんの力と、わたしたちプークの力を合せるなら、それは必ずできるものだと、このことをさらに強く確信いたします。この劇場はまた劇団創立者川尻東次をはじめ、永い苦しみをかけてその歴史を築いた多くの誇るべき先輩と協力者たちの記念碑でもあるのです。このたび幸にもわが国の演劇界の権威者であり、プークのよき理解者である河竹繁俊先生が、わたしたちの計画の顧問となつてくださいます。わたしたちは河竹先生をわたしたちの事業の歴史的社会的保証人として、人形劇団プークの劇団員一人一人は、すべての力を出して、心ずこの計画をなしてあげて、心ずこの計画の前にお約束することともに、われわれのこの計画に対し、皆様の暖かい御理解と御力添えを心からお願ひ申し上げる次第です。人形劇を愛しプークを支持し下さる皆さんへ、

2PP—人形劇場建設計画概要

○人形劇場建設予定地、新宿駅より徒歩5分の人形劇団プークの現在地総工費予算三〇〇〇万円

○工期予定一九六七年中に設計完成、一九六九年四月着工同年十一月完成

○建築物概要鉄骨コンクリート地下一階地上五階建、総床面積約六〇〇〇平方

○建物内容A人形劇場一人形劇の専門劇場としての機能を備えた舞台、一〇〇人〜二〇〇人収容の客席、楽屋、事務室、稽古場、美術工作室、会議室、資料図書室、

D、バス駐車場 その他

△人形劇場建設資金募集についてのお願い
人形劇場建設の所要資金総額三〇〇〇万円の内二〇〇〇万円は劇団自身の資金でまかない、残る一〇〇〇万円を次のような方法で皆様のお力添えを得たいと考へますので、よろしくご協力をお願い申し上げます。

△劇団への長期貸付けについて一口を一万円とし、幾口にても五年間以上預置きでお貸付いただければ幸いです。△一般資金カンパについて一口を五〇〇円とし、寄付者にはもれなく記念品を差し上げます。また劇場建設の協力者として、以後劇団の活動についてご連絡申し上げます。なお三〇〇〇円以上のご寄付をいただいた方には一九六九年に出版される「プーク40年史」を贈呈いたします。

△記念バッジについて2PP3ヶ年計画実施中は毎年一年ごとに異なるデザインでかわいらしい人形劇場建設記念バッジ(一個50円)を販売いたします。

☆劇場完成のあかつきに東京および地方各地で記念公演が持たれますが、毎年販売される三種類の記念バッジを胸につけた子供さんは特別招待者となります。



第2次、プーク建設3ヶ年計画第1年度★1967年バッジ★

盛会だった 2PP記念集会

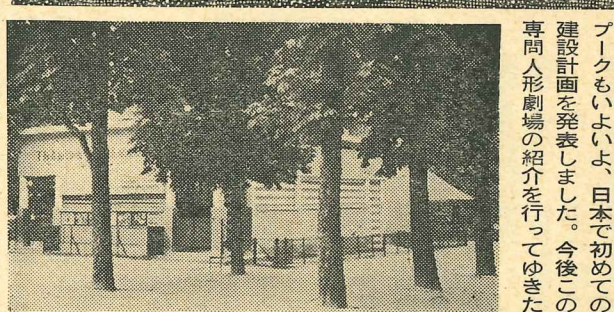
日本で初めての人形劇の専門と建設のあらましについて説明劇場を建設するという困難ではありますが大きな意義のある事業を進めるには人形劇を愛して下さる日本全国の多くの方々の御理解と御支持が是非とも必要であると考へまして2PP(第2次プーク建設3ヶ年計画)発足を記念する集会を七月二十六日夜赤坂の都市センター会議室で開催しました。

次いでこのたびのプーク建設計画の顧問になつて下さいます河竹繁俊先生が御病気のなか代理として河竹登志夫先生の御挨拶があり、千田是也先生の俳優劇場建設の御苦勞のお話。藤田圭雄先生、飯沢匡先生のはげましの御言葉、小森香子さんのチエコで御子様と時々行った人形劇場のお話など、百数十名の参加の方々、青江舜一郎、茨木重己の諸先生、新聞社TV局の方々、プークの顧客様あるいはプークOBの方々、ビール、ジュースを飲みおつまみを食べながら和気あいあいの中でお聴きして川尻東次さんがこの計画の趣意

劇場は、一〇〇人から二〇〇人の客席をもつ可愛らしい劇場です。けれどその舞台はどんな人形劇も上演することが出来る総合的舞台機構をもつ人形劇の専門劇場です。しかもこの人形劇場は東京の中心新宿駅より徒歩五分のところ建てられ皆さんと皆さんの子供さんにとって、いつでも人形劇を見られるかつてなかつた新しい文化の宮殿となるでしょう。そしてそれはわたしたちの新しい創造の実験室であり、劇団の多様な活動の堅固な根拠地になるでしょう。

一九六七年は日本の人形劇運動の歴史にとって大きな意義のある年です。二月には河竹繁俊先生を会長にして専門人形劇人十数名が集って「人形劇人協会」が誕生しました。五月には

世界人形劇場めぐり(1)



プークもいよいよ、日本で初めての専門人形劇場の建設計画を発表しました。今後この欄で毎号外国の専門人形劇場の紹介を行つてゆきたいと思ひます。

花のバリエーションの流れにほど遠からぬルクサンブール公園の人形劇場は昔から有名だつた。現在のこの劇場を中心に活躍している雲間雲間にみちみちていた。そののは、ウニマ(国際人形劇連盟)幹部会(人形劇人)の人々を愛する(交野)

ディザルティスの一席。川尻さんと私が訪れたのは三年前の六月、マロニエの緑にかこまれた劇場には、昔ながらのギニョール芝居をたのしみに子どもたちがつめかけていた。客席は百ちよつと、舞台は二階ぐらいのほどに小じんまりした劇場で、入口のわきのガラスのウィンドには、作品のスタイル写真とともに、かわいらしい人形がいくつも飾つてあり、とにかく楽しい雰囲気にみちみちていた。そしてウィンドの横には「人形劇の子どもを愛せよ、才智あふ人々を楽しませよ」とかい



この様に記念集会は盛大に和やかに催されました。私どもはプーク劇団員一同は改めて2PP達成に一層努力したいと心期した次第でありました。

第二回全国人形劇人会議は去る五月二十六日より30日までの5日間、参加者四五十人。行事参加の一般の人を含めると千人以上の盛況で、成功裡に開かれた。詳細については「日本の人形劇人」八月発行のものに報告されているので御参照下さい。

国際人形劇連盟(ウニマ)日本支部発足
かねてより国際人形劇連盟(本部：プラハ)に加盟している日本の人形劇人およびグループは、人形劇の国際交流のためそれぞれ活動してまいりました。五月三十日、国際人形劇連盟日本支部を確立発足し、その研究調査に協力することに

たつており、今後、諸外国の人形劇人との交流のセンターとなることである。事務所は、東京都練馬区高野台3-23-4 日本人形劇研究会におかれます。

上 人形劇人会議におけるプークのパレード